



多角形の中庭のある家 -外部と外部の狭間に住もう-

敷地は50年以上の歴史を持つ名古屋圏のニュータウンにある。夫は在宅ワークをし、妻に肢体障害のある夫婦からバリアフリーの中庭のある平屋を求められた。通りに面して庭を持つ住宅が一様に建つ典型的なニュータウンの街並みに中庭のある家は多くは見当たらない。高齢化が進むこの地域に永住を決めた夫婦の為に、中庭のある家がもたらす自然を身近に感じる居心地の良さや安心感のある暮らしと同時にこの地域とささやかな繋がりを持ちながら共に暮らしていることが感じられるような環境を提供したいと考えた。外部に対して適度な距離感と融和性という両義性を持つ環境だ。

そこで中庭にありがちな中心性を排除し、通りと中庭のふたつの外部に対して均質に窓を設け、外部と外部の狭間に住まうような空間を作ることにした。窓の大きさや位置は、プライバシー性や防犯性を考慮しながら周辺の緑や空や地との関係性を作る為に注意深く設定をした。そして内外が等価な居場所となることを意図して垂木をはね伸ばし、内外に渡り同一素材で覆われた軒下を作った。軒下の前庭にはキッチンからひと続きのカウンターを作りベンチを設えた。それは向かいの緑道のベンチに呼応しており、地域のひとと井戸端会議の場となったり、老後にコーヒースタンドを構えるなどまちに生活領域が拡張することを想定している。通りからふたつの開口を通して奥にもこの住宅の屋根や外壁が見える。内外が重層化するファサードは街並みに奥行きを与え、排他性を回避している。

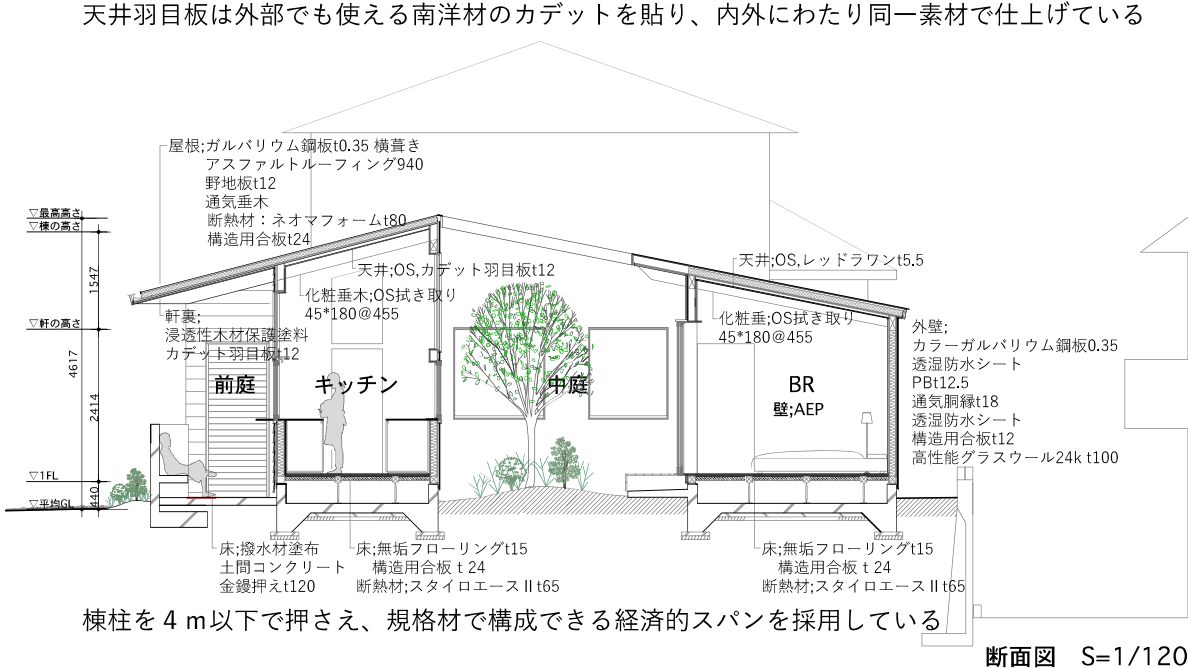
回遊できる内部は、渦巻き形状による天井高さの違いや、内外の関係性を利用して緩やかに分節して居場所を作った。夫婦は思い思いに過ごすことができ、同時に中庭を多角形とすることで生じた角度をもった壁が次の空間へと連続することで一体感も共存できる。こうした完結しすぎない空間構成や内外にわたる繋がり、自然やまちや人といった関係性に対して、暮らし方に応じた豊かな選択肢を与える。

外部（通り）と外部（中庭）の狭間に住まう

キッチンカウンターから緑道のベンチを見る



緑道のポケットパークに呼応した建物配置
配置図 S=1/1500





リビングよりダイニングを見る



多角形の中庭



中庭越しの夫と妻のスペース



一様な街並みに建つ渦巻き形状の屋根を持つ平屋



キッチンカウンターとひと続きの前庭カウンター



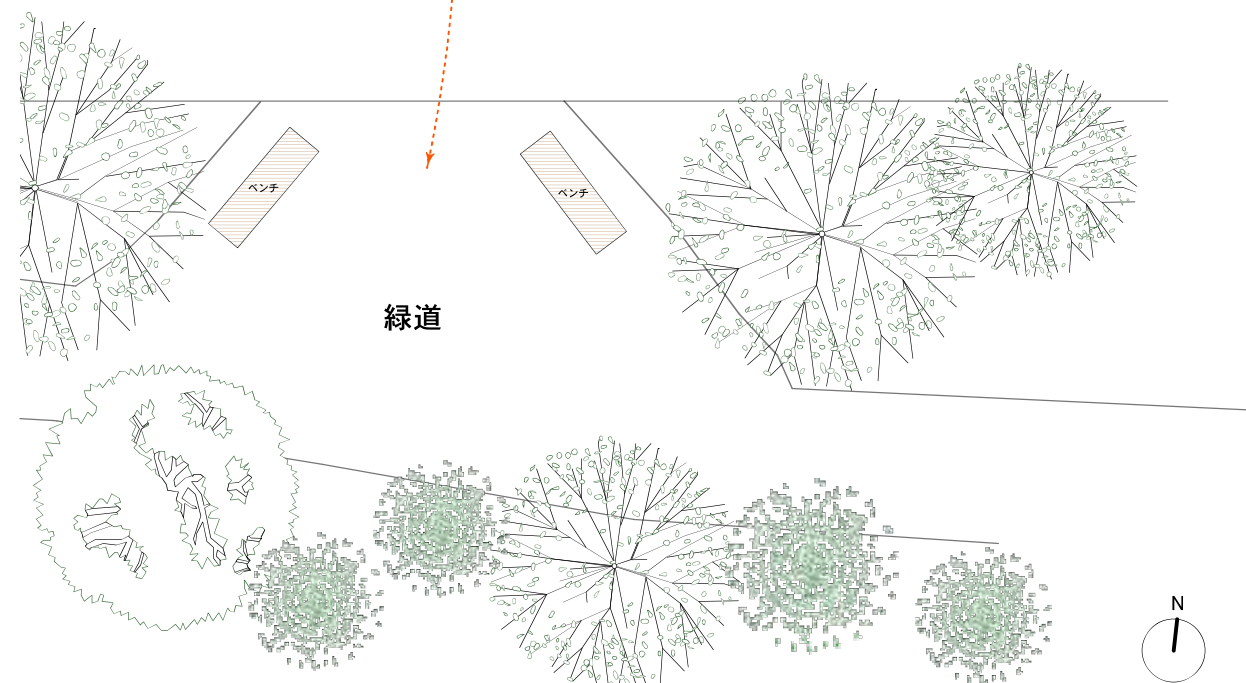
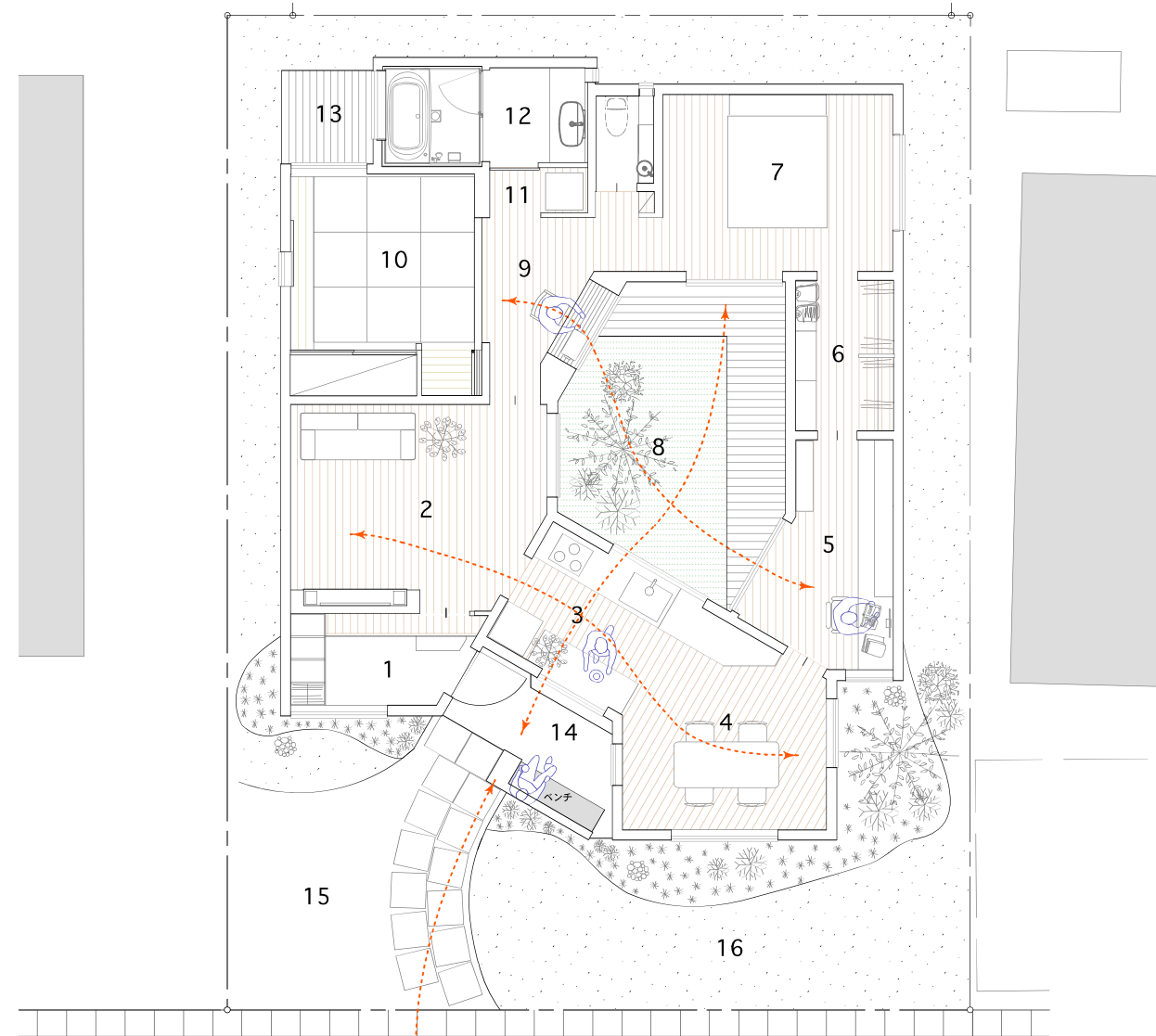
寝室から中庭と和室を見る



シークエンスな内部空間は渦巻き状に天井高さが変化する



ニュータウンの街並みに建つ平屋。緑道との関係性を考慮して居室の配置や空間を設えた。



- 1.玄関土間 2.リビング 3.キッチン 4.ダイニング 5.書斎 6.WIC 7.寝室 8.中庭 9.裁縫コーナー
10.和室 11.ランドリー 12.洗面室 13.縁側テラス 14.前庭 15.駐車スペース 16.庭

S=1:120
平面図

- ・住まい手を配慮したバリアフリーな作りとし、広く回遊性のある動線を確保している。
- ・トイレ以外はすべて引き戸とし、多様な使い方ができるようになっている。